

令和3年度 自己評価書

学校名	和歌山市立 高積 中学校
校長氏名	吉 川 豊
作成日	令和 4 年 3 月 4 日

1 教育目標

学校教育目標 「心豊かで、たくましい生徒の育成」 自ら学ぶ(自主)生徒 自ら考えて正しく行動する(内省)生徒 心身ともに鍛える(鍛錬)生徒 実践目標 ①時間を大切にしている生徒 ②物を大切にしている(校内を美しくする)生徒 ③挨拶をする生徒 ④きまりを守る生徒 ⑤人を大切にしている(仲良く助け合う)生徒 の育成

	確かな学力の向上	豊かな心の育成	健やかな体の育成	地域とともにある学校
指標	<ul style="list-style-type: none"> 県学習到達度調査で正答率が県平均を上回る めあてと振り返りを必ず授業で行う わかる授業、子ども主体の授業を実践した 	<ul style="list-style-type: none"> 学校が楽しいと感じる 特別な教科道徳の実践 いじめの発生件数 	<ul style="list-style-type: none"> 朝ごはんを食べた 運動部活動の加入率 積極的に運動を行うように計画し実践した 	<ul style="list-style-type: none"> 学校の様子がよく伝わった 中学校区での連携した取組を具体的に実践できた
重点目標 【P】	<ul style="list-style-type: none"> 学力課題を明確にし指導方法の工夫改善のための研修を深める 家庭学習習慣の育成に努める 職場体験活動を推進し、主体的に将来の生き方を考え、進路選択ができるようにする 	<ul style="list-style-type: none"> 人権・同和および道徳教育を推進し、人権意識を高める 教師と生徒、生徒同士の人間関係作りを努める 生徒指導方針に則り、組織的かつきめ細かい生徒指導に心掛け、体制の充実を図る 	<ul style="list-style-type: none"> 体力向上を推進する 基本的生活習慣の確立をする 危機回避能力の育成をする 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭・地域との連携を充実させる 中学校区における小・中の連携を推進する 地域の教育資源や人材活用を推進する
取組の状況 【D】	<ul style="list-style-type: none"> 学びあいの授業づくりに努める 授業の工夫、補充学習、家庭学習(質及び量の充実)をセットにした指導を推進する 和歌山の授業づくり3ヶ条を徹底させた授業を行う 職業調べ、キャリア教育にかかわる学習を丁寧に行い、自身の進路を考える機会をもった 	<ul style="list-style-type: none"> 人権同和学習に組織的・計画的に取り組む。さらに、特別な教科道徳の教科書にそって授業を行う。また、希望のかけはし等も活用する 教職員全員が協力し、あらゆる活動の場で、生徒指導理解に努め、方針に則った組織的かつきめ細かい指導を実践する 定期的にあいさつ運動を実施し、学年を問わず交流する 	<ul style="list-style-type: none"> 運動部活動を通して、体力強化になることを推奨していく。また、昼休憩は積極的にグラウンドに出て身体を動かすように働きかける 早寝、早起き、朝ごはんを推奨する 避難訓練や交通安全指導を計画的に行い、危機回避能力を育成する 	<ul style="list-style-type: none"> 各種便り、HP等を通して積極的に学校の情報を発信する 中学校区での小・小中、小中の連携を推進・充実する 授業のゲストティーチャー、クラブ講師等の人材や、地域の自然・文化を積極的に活用する 地域に図書ボランティアを募り、活動を始める。
取組の成果と課題(評価結果) 【C】	<ul style="list-style-type: none"> テスト発表期間中に質問日を設けて補充学習の拡充に取り組めた 県学習到達度調査については1年、数学以外は県平均を下回ったが、その差は年々少なくなっている 今年度の授業形態は、講義形式を基本とし、そこからグループ学習に進めていく方法をとり、かつ部分的にICTの活用を進めた 	<ul style="list-style-type: none"> 言葉遣いや他者への接し方に課題のある生徒がまだ目立つ 方針の周知は徹底し行う。諸問題に対しては、組織的な対応を心がけ、その強化は生徒指導主任と学年生指を中心に進めることができた あいさつ運動については、保護者や生徒会の協力を得て続けている 	<ul style="list-style-type: none"> 昼休憩にボールを貸し出し、身体を動かす生徒が多い 早寝、早起き、朝ごはんを守れず、特に朝ごはんを食べずに登校する生徒がいる 自転車の乗り方の苦情を地域からいただいている 	<ul style="list-style-type: none"> 全学年が学年だよりを発行し、HPは学校の様子を随時公開した 学校開放期間中には保護者や地域の人が来校された 学校運営協議会の委員の方々からは大変有益で具体的な感想や意見をいただくことができた。特に地域との関わり方を参考にし、積極的に行えるようにしていきたい
改善方法 【A】	<ul style="list-style-type: none"> 今後も様々な取組を組み合わせる組織的に行っていく ICT等を活用して授業の工夫研究 学びあいの授業づくりに関する校内授業研究の実施 宿題の工夫による家庭学習習慣の育成 補充学習の拡充 朝の読書の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も本校は生徒指導が最重要課題である。今年度末までに見えてきた諸課題、不十分であった点に対して、次年度早々の改善に向けて取り組むとともに、まだ課題として見えていない学年、新入生に対しても、長期的展望のもと、戦略的に初期の段階から取り組む 全教員が意識を持ってさらに授業研究や評価の研究に取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> 体力・運動能力テストについては、与えられた課題に向かって持っている力が十分発揮できるよう体育科の教員を中心に指導を続けていく 早寝、早起き、朝ごはんと学力の関係が密接な関係があることをさらに伝えていく 交通安全指導の徹底及び避難訓練の大切さを理解させる 	<ul style="list-style-type: none"> 今以上に情報発信できるように、また、保護者とともに取り組んでいく内容も検討していく 土曜授業を実施し、保護者の方には、本校の取組、生徒の様子に対してさらに関心を持っていただき、来校しやすい工夫を重ねる 地域との関わりを積極的に行う 地域の中の学校を意識する

3 その他の課題

<ul style="list-style-type: none"> アンケートについて、令和2年度と比較し、全体的に肯定的な回答が、1～2P下がったが、生徒は学習する姿勢は上がってきている。 生徒アンケートより「各教科の授業内容が理解している」が昨年より2P上がっているが、否定的回答の原因が「各教科担当の説明不十分」が一番多いのは強く受け止め、改善していく必要がある。
--